



雌犬の夜



頑張る子だから
覚えてるよ

君は3回目だね？



「まずはおつかいどうが
「チューから」なんだ
「おつかいどうが」なんだ



「おつかいどうが」



「頑張る子...」



「今日は
どんなことしたい？」



「身体のと真ん中を指せば」

「女は期待で勝手に「おつかいどうが」

「フム...」

「フム...」



……私のスイッチ

キミにはもう
バレちゃってるからなあ……

あーっ

あーっ
あーっ
あーっ



あーっ!!
あーっ!!

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
あーっ
あーっ









男は制裁され 女は消えるという



この女を外に連れ出さないと

ダメダメ



ダメだよ
お外いくのは



俺ド変態なんで

ヘンタイに
なりたいんで

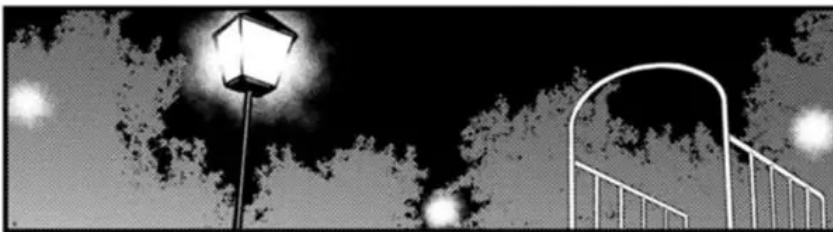


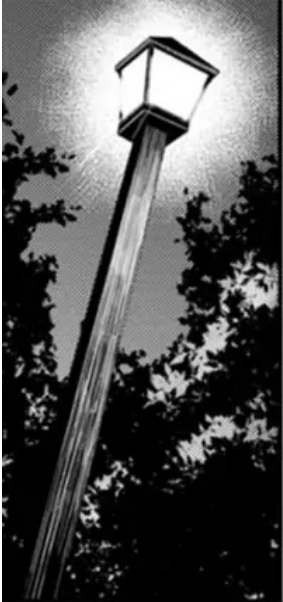
ダメだって

ヘンタイに
なっちゃうよ?



ヘンタイに
なっちゃまって下さい





挙動不審の
二人組でしょ

裸って
バレてないかな



なにでいい？

…ゴムは…



…ゴムは…



ゴムは…

…ゴムは…







あの女は

夜にしか現れない

昼には
あの女の昼の姿が
あるのだから



どこかの街の
どこかの場所に

生きている



慣れたら昼の姿をまごころで

その女は

この今も



雌犬の夜 ■ 完

その後の『雌犬の夜』



というか
人が
苦手だ

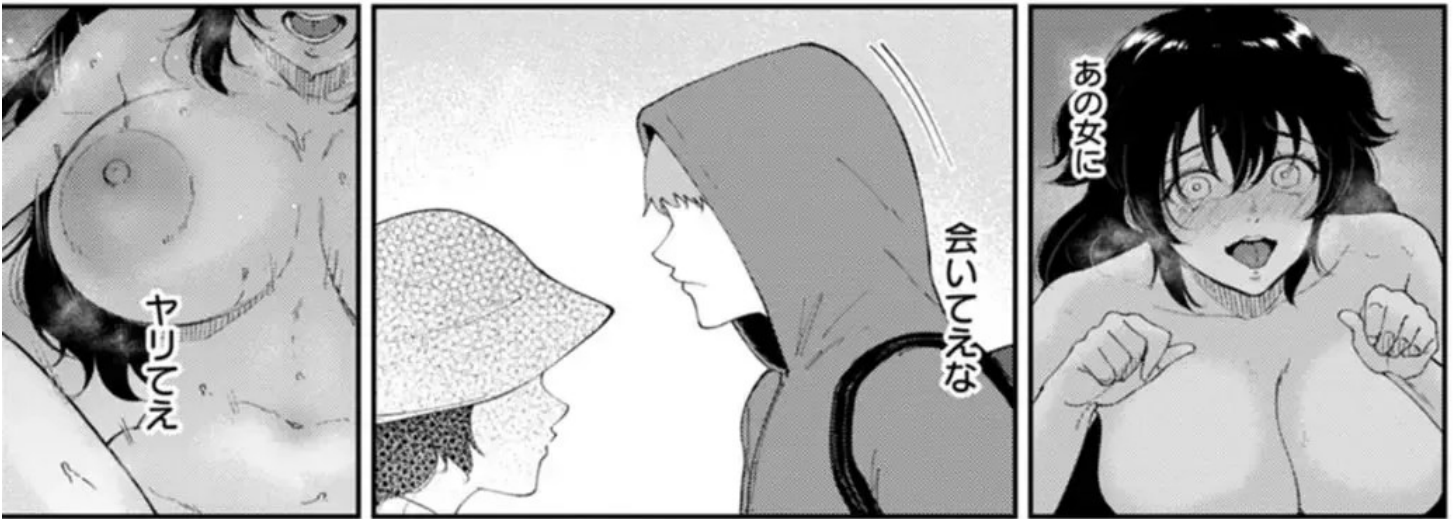


自分が人では



こっちは避けてるつもりなの

昔からどこでもそうだった いちいち誰かと衝突する







あとがき

自身ではもう8冊目の単行本になるのですね。
オリジナル同人作品『深夜営業』シリーズ各作品に、
『エンジェル倶楽部』誌への復帰作『雌犬の夜』と
過去『失楽天』誌に掲載した2作品を加えたものとなります。
私は作品発表を商業誌と同人誌とによって行っていますが、
作品を全て単行本の形で発刊したいという
気持ちから、このような刊行となっています。
時期的に結構前のももあり、振り返ると
我ながら新鮮な気持ちすらあります。
何より、楽しんで頂けたら光栄です。
8冊…
「自分はペーペー作家である」という自覚は
いい加減なくすべき、という気はしているの
ですが、そうした途端に創作の壁にぶち当たり
グニャグニャになったりするんですから、
創作は油断を許しませんね。
もっと長く、もっと積極的に創作されている
先生方を見習いながら、私も生きて行かねば。
一生涯ペーペーでいきます。

私は作品を作る際、《単行本一冊分くらいの
作品を一つのテーマで括る》ことが
結構好きで、今作はそういう意味では
《昼の顔と夜の顔を持つ女／男たち》が
テーマだと言えるかもしれません。
さて、次の一年は、私はどんな作品作りを
していくのでしょうかね。
じっくり考えながら、歩みを止めずに
いたいと思います。

今後ともお付き合い頂ければ幸いです。

令和7年春 ビフィダス

本体表紙に 作品解説 あります

表紙・表

作品解説

雌犬の夜 2024年9月

「そのシャッターが少し開いてたら開店の合図」というお店があり、何か面白いなあ、と思っていました。それに合わせ、話が都市伝説っぽいものになりましたね。

また、この作品は音声作品のエロさを感じながら「音声作品の良さを漫画で構築できないか」といったことも考えていましたが、うまく行っているかは分かりません。

謎のヒロイン。初期設定では、どこかの富豪の奥さんで側に運転手が控えている、みたいな構想がありましたが、贅肉みたいなドラマ描写が増えそうだったので削ぎました。

こういう不特定多数の男と性交渉していそうな女性を描く時、「この子は相手の性病チェックとかしてるのかな、その結果として性交渉を拒否できる体制はできているのかな」とかいちいち考えてしまうタイプです。

そして男子。変態扱いされて可哀想ですね。性的嗜好を歪まされてしまった故の不幸です。二人、破れ鍋に綴じ蓋になるといいですね。



私は雌犬 2023年5月

こちらの作品は、フェチモデルにして造形作家の大門みやこ様と協力して作った作品です。

創作に新しい風を通したい思いがあったのです。「夜の街に潜む、よるべない女子」という起点から構想を立ち上げたのですが、どうにも私の頭の中で作品として立ち上がらず、七転八倒しているうちにレズNTRとして結実しました。

瑞希ちゃん。周囲からは王子様だとか自我を確立したカッコいい女性に見えていても、自分自身には確固とした目標や自信がなく、流されている子です。

こういう悩み、結構生々しいんじゃないかしら。

ちなみに、この子の名前が漢字で呼ばれている時は、この子の内的人格に触れている、と考えて下さい。

カタカナ呼びの時は、そうではないということです。

コスプレメイドの深夜営業 2023年2月

上の話とも繋がりますが、創作というのはどうにも自分という牢獄の中での作業めいたものになります。当時、創作に新しい風を入れたい、という欲求が切実なものになっていました。その中で生まれた作品です。

この時期、私は都内のとある街に頻繁に出掛けていましたが、その街をモチーフにした作品がこの本には集中しています。

なお、私は好きだとか応援したいと思った時にその対象の《漫画》を描こうとする性質があるのですがこれは結構なカルマのあることなのでしょう。

二人のメイドさんが朝焼けの街を私服で帰る姿とか、絵になりそう。



カバー・裏+背表紙

